

(様式3)

農業研究成果情報

No. 782 (平成29年5月) 分類コード01-11 熊本県農林水産部

春播きトウモロコシ「P1690」の熊本県における品種特性

「P1690」は、多収性および耐病性に優れ、熊本県における春播きトウモロコシ品種として有望である。

農業研究センター畜産研究所飼料研究室 (担当者: 北川まき)

研究のねらい

本県における飼料用トウモロコシについて、新たな優良品種の早急な普及を図る目的で、数年以内に市販開始予定の新品種を中心に収量性やその他の諸特性について調査し、本県の奨励品種である「34B39」を比較品種として、これと同等以上の能力を有する品種を選定する。

研究の成果

1. 「P1690」の播種から収穫適期までの日数は、114日で、4月上旬に播種した場合、8月上旬に収穫できる(表1)。
2. 「P1690」は、比較品種と同程度の耐倒伏性が期待できる(表2)。
3. 「P1690」の病虫害への抵抗性は、比較品種と同程度である(表2)。
4. 「P1690」は、比較品種と同等の乾物収量が期待でき、本県における飼料用トウモロコシ品種として有望である(表3、図1)。

※比較品種: 過去3年間の試験データに基づき、熊本県で奨励品種に指定されている品種

普及上の留意点

1. 生育状況および収量については気象・土壌環境の変化による影響を受けるため、施肥管理や適正な時期における播種を徹底すること。

表1 生育特性に関する調査結果

系統名	品種名	相対熟度	播種から収	初期生育	稈長	着雌穂高	着雌穂高 ／稈長
			穫適期まで の日数				
			日	極不良1～極良9	cm	cm	%
X18B703	P1690	115	114.0	5.9	279.1	125.9	44.9
34B39(比較)	パイオニア115日	115	115.0	6.3	293.4	138.9	47.2

- 1) 数値は調査年の平均
- 2) 播種期は、平成26年4月14日、平成27年3月31日および平成28年4月5日。
- 3) 1区は12㎡とし3反復で実施した。
- 4) 施肥量は、N:1.5kg/a、P2O5:1.5kg/a、K2O:1.5kg/a。
- 5) 収量調査は、絹糸抽出期から38日目を基準とした。

表2 倒伏性、病害抵抗性に関する調査結果

品種名	系統名	倒伏	折損	虫害	紋枯病 罹病率
		%	%	%	%
X18B703	P1690	0.0	0.0	2.2	25.4
34B39(比較)	パイオニア115日	0.0	0.0	8.9	36.9

- 1) 数値は調査年の平均
- 2) 虫害はイネヨトウによる倒伏
- 3) 試験ほ場は、連作により紋枯病が発生している。

表3 乾物収量に関する調査結果

品種名	系統名	乾物茎葉 収量	乾物雌穂 収量	総乾物 収量	総乾物率
		kg/a	kg/a	kg/a	%
X18B703	P1690	90.8	80.9	171.7	28.5
34B39(比較)	パイオニア115日	96.8	85.2	182.0	28.8

- 1) 数値は調査年の平均

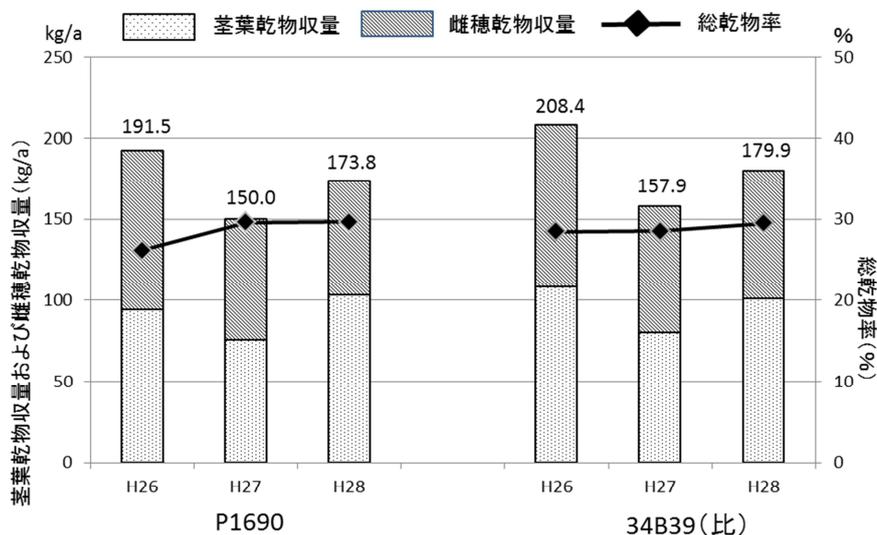


図1 品種ごとの3ヵ年の茎葉乾物収量・雌穂乾物収量及び総乾物率